

# 校内研究全体の成果と課題

## 成 果

### 他教科等と道徳科をつなぐ単元づくりについて

- ・各学年、グループで道徳科と他教科等をつなぐ単元づくりを行い、計画的に学習を進めていくことで、有機的な学びができた。道徳科、各教科等の単独の学習よりも深い学びにつなげることができた。
- ・他教科等と道徳科をつなぎ単元化することで、「気付き、考え、主体的に行動できる児童」の育成を目指しているが、単独の学習に比べ、様々なことに気付き、自分で考え、調べてみようとする主体的な児童の姿がよく見られた。
- ・低学年グループは生活科とつなぐこと、中学年グループは内容項目「C伝統文化の尊重、国や郷土を愛する態度」教材とつなぐこと、高学年グループは行事や歴史的な出来事等とつなぐことを共通して行った。単元づくりは学年ごとだったが、グループごとに共通した内容を設定することで、協力して教材研究を行うことができた。
- ・年度末に次年度の年間カリキュラムの見直しを行い、単元化できそうな教材を提案しておくことで、新年度のメンバーでの研究が進めやすくなる。

### 道徳科の授業の充実について

- ・「四つの心」を使用することで、内容項目の四つの視点を意識させることができた。
- ・年度当初にオリエンテーションを行うことで、道徳科の意義を確認したり新しい学年での道徳学習に対する意欲を高めたりすることができた。
- ・役割演技や心のものさしを用いることで児童が自分の思いを表現することができた。また、表情絵やハートグラフで、心情やその変容を視覚的に捉えることができ、理解が深めやすくなった。
- ・「友達タイム」では、自分の考えを伝えようとする児童が多く見られるようになった。また、友達の考えを自分の考えと比べながら聞くことで、考えを深めたり広げたりできる児童が増えた。
- ・教師ができるだけ児童のつぶやきを拾い、切り返しの発問を意識して行うことで、考えを深めることができた。
- ・「見つめる」の時間をしっかりとれるように、時間配分を意識して授業を行った。書く活動では振り返りの視点を意識させた。
- ・教材に応じた板書の工夫ができてきたので、今後も続けていきたい。
- ・学年やグループで学期末の道徳授業の振り返りをすることで、指導者が課題を把握することができ、新学期にむけての具体的な取組や手立てを考えることができた。
- ・今年度からの教科書に合わせて、授業セットを作り直すことができた。作成した教材や資料を全教員で共有化することで、授業準備の負担を減らすことができています。次のクラスや次年度の授業づくりに活用できるように、授業を終えて感じた改善点などを伝えたりメモして教材セットに残したりしている。
- ・教師の授業力の向上のために、全校研究授業3回、グループ授業研究会5回を行うことができた。
- ・夏期休業中に研究授業の指導案作成を行い、講師から指導を受けたことで、2学期以降のグループ研の時間を減らすことができた。

## 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実について

- ・「サッキーカード」を活用することで、児童の主体的な活動を促すことができた。活動後の振り返りでは、自分の成長を感じることができる児童が増えてきた。
- ・給食時の放送で桜カードの紹介を行うことで、桜カードに対する児童の意識が高まった。友達の良いところを見つけようとする児童や自分のよさに目を向ける児童が増えた。
- ・道徳アンケートで、道徳科や道徳的価値に関する児童の意識や心の成長を捉えることができ、今後の課題を考えることができた。
- ・道徳教育に関する掲示を継続的に行うことで、学習したことを振り返る機会や道徳的価値について考える機会をもつことができた。

## 家庭・地域との連携について

- ・「ふれあい道徳教育」「家族でタイム」「ハグハグ大作戦」等の取組で、保護者の協力を得ながら、道徳教育を進めることができた。
- ・「サッキーカード」で保護者にも児童の頑張りを知ってもらえることができると共に、保護者からのコメントが児童の達成感や次の意欲につながっている。
- ・地域の方のご協力をもとに様々な体験活動ができ、地域の自然や文化に触れるよい機会となっている。
- ・道徳日より等で、保護者や地域の方に本校の道徳教育について情報発信を行うことができた。

## 課 題

### 他教科等と道徳科をつなぐ単元づくりについて

- ・大きな単元構成だけでなく、数時間単位でも他教科等と道徳科をつなぐ学習が可能である。どの教科と道徳科のどの教材をつなげられるのか、教師が常に意識して見通しをもった計画を立てることが必要。
- ・主体的な児童の姿はよく見られるようになったが、一時的なもので終わることもあった。児童のより主体的な行動を促すために、途中で学習活動を変更できるような柔軟な単元計画、そのための予備の時数の確保が必要。また、児童の主体的な活動を継続させるような手立てを考えておく必要がある。

### 道徳科の授業の充実について

- ・教材文が難しく内容把握が難しい児童がいたので、教材提示や注釈の仕方を工夫していきたい。
- ・「友達タイム」での交流は活発になってきたが、まだ自分の考えを積極的に伝えられない児童もいる。児童が進んで、誰とでもたくさん交流をしたいと思えるような手立ての工夫が必要。
- ・「見つめる」時間をもっと確保できるようにしたい。そのために、発問を工夫して教材文を扱う時間を短くしたり、事前に教材文を読ませる予習型を取り入れたりしていく。
- ・自分事として捉えさせるのが不十分なことがあった。振り返りの書き出しを工夫したり、自分の生活とつなげて考えさせたりすることで、道徳的価値を自分事として捉えられるようにしていきたい。
- ・全ての児童が伸び伸びと自分が思ったことを素直に発言できるような雰囲気作り、学級経営に努めていきたい。

## 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実について

- ・全校道徳掲示板の掲示物作成の負担を減らせるように、分担や内容を見直していきたい。

## 家庭・地域との連携について

- ・「家族でタイム」は、家庭によって取組にかなり差がある。意義をもっと保護者に知らせ、協力を呼び掛けていきたい。